

広  
報



1999

9/1号

No382



ごあんない

- (P 2~9) ..... まちのわだいほか
- (P 10~11) ..... こんにちは保健婦です
- (P 12~13) ..... みんなのひろば
- (P 14~17) ..... くらしの情報



福岡県金田町

# 『命を救って』

—いのちへのおもいやり  
いのちへのやさしさ—

## 肝臓移植手術を支援する募金に愛の手を

8月15日号の広報カナダでお知らせ（チラシ）しましたように、宝見区にお住まいの吉田恵子さん（29歳）が肝臓の病で、今年5月より九州大学医学部附属病院に入院していましたが、「募金が集まるまで手術を待てば命があぶない」と、8月16日に急きょ移植手術が行なわれました。手術は、13時間もかかりましたが、医師団からの正式な発表はまだ届いておりません。

### 【経過】

平成11年7月12日に吉田恵子さんの家族および地元宝見行政区より、金田町、金田町議会、金田町社会福祉協議会に対して、移植手術に対する医療費募金の支援の申し入れがなされ、同日の金田町臨時議会での全会一致の支援決定を皮切りに、金田町、金田町社会福祉協議会、行政区長会、恵子さんの同級生の会等の各級機関で支援が決定されました。

これをうけて、8月9日に『吉田恵子さんの肝臓移植手術を支援する会（会長 大島陸雄町長）』を全町の規模で正式に発会し、役員体制の確立と当面する取り組み等が協議決定されました。

次のとおり、8月13日より吉田恵子さんの『命を救う募金活動』が本格的に始まりました。

#### 1.町内

- 行政区長さん（細長）を通して、町民のみなさまへの募金のおねがい。
- 町内主要箇所に募金箱を設置。
- 町内6ヵ所に懸垂幕と横断幕を設置。
- 各行政区に立看板を設置。
- 広報カナダやチラシ等によるお知らせとおねがい。

#### 2.町外

- 田川市郡各自治体への支援のおねがい。
- 民主団体、労働団体等へのおねがい。
- 街頭募金活動など。

以上のように着々と吉田恵子さんへの支援の輪が拡がりつつあり、今後とも本会の募金運動に対しまして、町民のみなさま方のあたたかなご支援とご協力の程を、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ先 金田町社会福祉協議会 ☎0947-22-6631  
金田町役場福祉課 ☎0947-22-6664



8月9日、「吉田恵子さんの肝臓移植手術を支援する会」が正式に発会



吉田恵子さん

# まちのかたわい

my town TOPICS

my town TOPICS

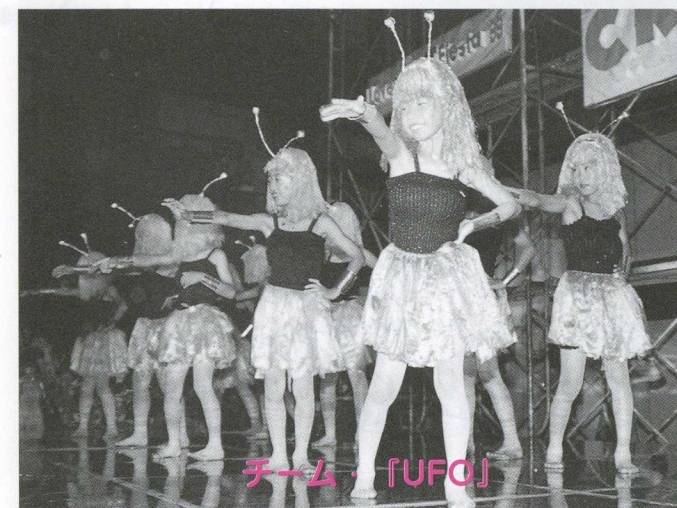
あなたの身近な出来事、地区の話題など  
どしどしお寄せください。お待ちしております。  
連絡は、広報担当(☎22-0556)まで。

## やったね最優秀賞

Love・カナダ・Fiesta衣装カーニバル



金田中学校と方城中学校の吹奏楽部のみなさん



チーム・「UFUO」



チーム・「橋屋夢一夜」



チーム・「フラワー」

# 自転車ひとり旅

my town TOPICS

福岡大学英語学科4年の永末康介さん21歳(東金田)が、6月25日から7月13日(全日程19日中3泊フェリー)にかけて、青森から福岡まで自転車で16日間のひとり旅を行ないました。

この旅の道中には、いろいろな出来事があったようです。今回の旅のことについていろいろとお聞きすることができましたので、紹介したいと思います。



## ■このような旅をしたきっかけは？

大学で所属している水泳部のサークルの先輩がアウトドアが好きで、自分自身の力で何ができるのかをやってみたかった。きついことを行なって、やり遂げたとき達成感が味わいたかった。

また、大学2年の時に3人グループで、北海道を自転車で一周の旅を行なったことがあったので、今回はひとり単独でこの旅を行ないたかったということと、大学4年のこの時期しかできない、どうしてもひとりで行きたいという思いがありました。

6月25日  
箱崎～直江津までフェリー

6月26日  
直江津～室蘭までフェリー

6月27日  
室蘭～青森までフェリー

6月28日  
青森

6月29日  
盛岡

6月30日  
一関

7月1日  
郡山

7月2日  
宇都宮

7月4日  
山梨

7月3日  
東京・川崎

7月9日  
神戸

7月10日  
岡山

7月11日  
広島

7月12日  
小倉

7月13日  
博多

7月7・8日  
奈良

7月6日  
名古屋

7月5日  
静岡

## ■宿泊や食事はどのようにしていましたか？

最初のフェリーでの3日間以外は、仙台まで行けず一関のビジネスホテルで1泊、東京・川崎の兄の所で1泊、山梨の友人宅で1泊、奈良でケガをしたためにやむなく2泊まった以外は、10日間は野宿で過ごしました。また、食事はコンビニエンスストアや、ファミリーレストランを利用しました。自転車では荷物を最小限にすることがよいといったことから、テント以外の飯ごうや米などキャンプ用品は持っていきませんでした。

my town TOPICS my town TOPICS my town TOPICS my town TOPICS

## ■この旅で一番きつと感じたときは？

青森から自転車初日(6月28日・天候/雨)で、自分自身が思っていたところまでいけなかったこと、6月29日の大雨のとき電話BOXで宿泊をしたが、大雨のためまともな睡眠もとれず早朝4時に起床し、雨の中を仙台まで100kmの道のりを走ったことです。

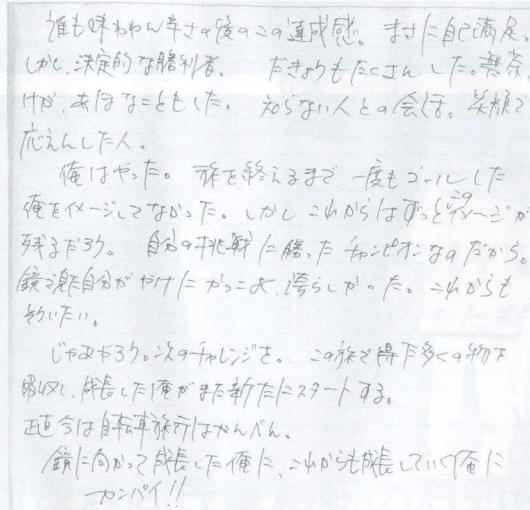
## ■今回の目標は？

限られた時間の中で、日本縦断を自転車で走破することに重点を置き、途中で観光をする時間をとることは考えませんでした。大学の授業に間に合うことを考えながら、自分にプレッシャーを与えてやり遂げることを目標にしました。

## ■自転車に乗っていたとき何を考えていましたか？

今まで過ごしてきたこと。将来のこと。この旅の2日目、3日目のこと。途中でなぜこんなことをしているのだろうと疑問に思ってしまったこと。ひとり旅といえど、日本の中にいて途中で会った人たちと会話をし、自分自身が活かされていると感じるようになり、両親への感謝の心がわいてくるようになったことなど。……

## 永末さんが書いていた日記の1ページです



こうして、インタビューに応じていただいた永末さんですが、「この旅での楽しみは正直言ってありませんでした。あったとしたら知り合いと会えたことか、知らない人から声をかけられたときがうれしかった。」ということでした。今しかできないことをやり遂げる。一生懸命にやってみるといった心意気が非常に感じられました。次の目標を持って生き生きとしている姿が、うらやましくもあり、若さを感じられる好青年でした。



## ■この写真はどのようにしたのですか？

実は、奈良へ向かっている途中のトンネルの下り坂で、ちょっと下を向いていたら気づいたときには目の前にガードレールがあり、激突してしまい、ケガをしました。そのため、奈良で病院にかかったので2日泊まりました。予定外でしたが、かなり疲れが溜まっていたようです。

## ■では、最後にどうしてこの時期梅雨の時期に計画をしたのですか？

私には、大学の教授になりたいという夢があるのでこの時期を選びました。なぜならば、大学院に進みたいので、9月の試験に向かって集中して勉強をしたいという考えから、6月のこの時期に行ないました。

強行かとは思いましたが、自分自身にプレッシャーをあたえるために、フェリーで北海道へ渡り、青函トンネルを通るつもりでしたが、ダメだったので、青森からでしたが、自転車での出発点を遠くに持っていき、やり遂げようと思いました。